短　報

四国のカラハナソウ（山中二男）

Tsugiwo YAMANAKA : *Humulus lupulus* var. *cordifolius* found in Shikoku

カラハナソウは，日本では北海道から本州中部地方まで分布する植物である．四国では，愛媛県の東赤石山付近で一度採られたということを，三井正夫（1930）と芥川正次郎（1933）が，それぞれ報告しているが，その後の消息は不明である．

このほど，高知県東津野村の黒滝山（5万分の1地形図新田では無名で，天狗高原の東につづく山である）の海抜1300m近くの林縁で見つかった．生育地はかなり人手の加わったところで，その状況や，本州でもカラハナソウは人里や山小屋近くなどにもあることから考えると，これが四国での最初の確かな記録ではあるが，もとからの自生かどうかの疑問はある．しかしまた，近くはクロタキカズラをはじめいろいろ珍しい植物の見られる石灰岩地帯であるから（山中　1964），カラハナソウがあっても不自然とはいえない．

Humulus lupulus **L. var.** ***cordifolius*** **(Miq.) Maxim.**

Hab. Shikoku. Kochi Pref., Mt. Kurotaki (T. Yamanaka, Sept. 10, 1993, TI). The first definite record in Shikoku.

引用文献

芥川正次郎　1933. 伊豫五良津赤石山植物目録 114pp.
三井正夫　1930. 五良津東赤石植物目録.
山中二男　1964. 四国地方の石灰岩地帯の植物相 9. 植物分類地理 **21**: 29－33.

（高知市[redacted]）

朝鮮，中国のカライタドリについて（山崎　敬）

Takasi YAMAZAKI : On *Reynoutria yunnanensis* (Lévl.) Nakai ex Migo

朝鮮，中国には1種類のイタドリ属の植物が分布する．日本の研究者はイタドリを身近に知っているので，日本のものとは異なることに気が付き，小泉源一氏（1917）はこれに *Polygonum reynoutria* var. *ellipticum* の新名をつけて，カライタドリと呼んだ．中井猛之進氏は正式には発表されなかったが *Reynoutria henryi* Nakai の新種名を与え，御江久夫氏(1935)に依って正式に発表されている．その後，*Polygonum yunnanense* Léveillé (1908) が同じものであることに気が付き *Reynoutria yunnanensis* (Lévl. et Vnt.) Nakai ex Migo と訂正した．また前川文夫氏は湖北植物誌の紹介にさいして，湖北のものを *Polygonum cuspidatum* Sieb. et Zucc. として，イタドリと同種に扱っているが，*Reynoutria henryi* Nakai とすべきだと述べている（本誌 **54**: 14, 1979），描かれた図からしても，日本のイタドリではない．ところが，中国の植物を研究したヨーロッパの研究者や，中国の研究者は，日本のイタドリをよく認識していなかったとみえ，現在でも中国のものを *Polygonum cuspidatum* としイタドリと同種としているのが一般である（中国高等植物図鑑 **1**: t. 1134, 1972, 他）．

カライタドリは葉は質が厚く，円形で，先は短く尖り，基部は丸く，果実を包む翼は紙質で，その柄は長く4－5mmである．イタドリは葉の質は薄く（オノエイタドリは厚い），広卵形で先はするどく尖り，基部は截形で，果実を包む翼は膜質で，その柄は長さ2－3mmであるなどかなり異なる．別種として扱うのが妥当と思う．ただカライタドリの学名は *Polygonum fargesii* Hance (1883) が最も早いので，それを使うべきである．